



中部の

エネルギーを 築いた

人々

福沢桃介・駒吉に仕え、

電力周辺事業で活躍した **久留島通彦**

久留島通彦は福沢桃介に仕え、後に福沢の長子、駒吉の下で主として関連事業の経営にあたった人物である。彼の仕事をたどることで、福沢桃介・駒吉の幅広い事業活動の一端が明らかになってくる。久留島は、明治19年2月、大分県、久留島通與の四男に生まれた。明治43年に慶応義塾理財科を卒業後、福沢桃介の下で職業生活を始め、同44年、福沢が社長を勤める浜田電気(島根県)の支配人となり、同社の創設や一ノ瀬発電所(220kW)の建設に携わり、事業を軌道に乗せた。大正4年には豊橋電気(社長：福沢桃介)に招かれ、業務部長として(大正5年2月就任)、技師長今西卓と共に経営を担った。



久留島通彦

東海曹達・大同製鋼



福沢駒吉

大正5年12月には、福沢駒吉が社長を勤める東海曹達に移り、支配人に就任した。同社は、名古屋市港区に工場を置き、余剰電力利用し電気分解法によって晒粉や苛性ソーダを製造する会社で、第一次大戦ブームのなかで順調な業績を上げた。同9年には関連会社として東海塩業を設立して常務取締役として就任している。同10年3月、大同電力に移り同社の副業として運営して

いた電気製鋼部門の責任者(製鋼所長)に就任した。久留島は、製鋼部門を大同製鋼として独立させ、常務取締役として就任した。大同製鋼は同じく福沢系の電気製鋼所と合併して同11年4月大同電気製鋼所となるが、その後久留島は昭和3年4月に辞している。

いた電気製鋼部門の責任者(製鋼所長)に就任した。久留島は、製鋼部門を大同製鋼として独立させ、常務取締役に就任した。大同製鋼は同じく福沢系の電気製鋼所と合併して同11年4月大同電気製鋼所となるが、その後久留島は昭和3年4月に辞している。



東海曹達工場(名古屋市港区築地町)

矢作水力・矢作工業・昭和曹達

大正11年2月、久留島は矢作水力に入社して支配人となり、福沢駒吉(大正11年副社長、昭和3年社長)の補佐役として活躍した。大正14年4月に取締役、昭和8年10月常務取締役、同15年10月には副社長へと累進し、

同17年に同社が日本発送電に統合された後、代表清算人となった。矢作水力入社後の久留島は、電気を利用する関連事業を創設しその経営に関わった。

まず、昭和3年12月に昭和曹達(社長：福沢



昭和曹達工場(現東亜合成)



矢作工業工場(現東亜合成)



矢作水力本社(名古屋市東区東片端町)

矢作工業(社長：福沢駒吉)が設立され、久留島は常務に就任する。同社は、矢作水力が開発した天竜川水系の水力電氣を利用し電解法によって硫酸、合成アンモニアを製造し、工場は昭和曹達

駒吉)が設立され取締役に就任する。同社は東海曹達の姉妹会社として名古屋港南部7号地(現昭和町)に苛性ソーダや塩素を製造する新鋭工場を建設した。同8年5月には

に隣接する7号地に設置した。(昭和15年に矢作水力に合併され同社工業部となり、矢作水力が国家管理されると再び矢作工業として独立する)。

東亜合成・矢作製鉄

戦時下の昭和19年7月に、昭和曹達・矢作工業は、三井系の北海曹達・レーヨン曹達と合併し、アンモニア・ソーダの2大部門を擁する化学工業として東亜合成化学工業が新発足する。戦後引退していた久留島は、会長海東要造に請われて昭和25年8月に取締役となり、同28年9月から33年2月まで同社の会長を務めた。

また、昭和12年12月には、国家の重要産業としてぜひ手がけたいとする福沢桃介の強い希望を踏まえて矢作製鉄が設立され、久留島は常務取締役に就任する。同社は、矢作工業で副生される硫酸滓を利用して銑鉄を生産する会社(平成10年7月解散)で、戦



矢作製鉄工場(7号地)



久留島政治

後同24年9月から36年までの間久留島は会長を務めた。

なお、彼の次兄久留島政治も福沢系の人物で、東海道電気鉄道(大正10年愛知電気鉄道に合併)支配人、東邦電力常務取締役(関西駐在)を経て、大正15年揖斐川電気に移り専務取締役・社長として苦境にあった事業の再建を果たした。(浅野 伸一)